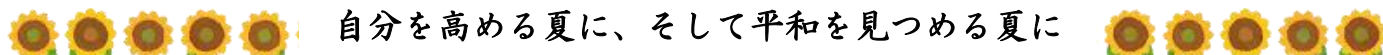


小岩三中だより

No.4 7月18日

校長 山田 人也



まぶしい夏の日差しとともに明日から夏休みを迎えます。大きな事故無く無事に一学期を終えられることを、大変うれしく思っております。生徒たちもこの日を待ちわびていたことでしょう。特に2年生は、7月23日からの林間学校を目前に控え、心躍らせている人も多いのではないのでしょうか。

この夏休みは、心身をリフレッシュさせる大切な時間である同時に、これまでの生活や学びを振り返る良い機会です。長い休みだからこそ「何となく過ごす」ではなく、「何か一つは目標をもって過ごす」ことを心がけてほしいと思います。たとえば、「毎日〇〇分は学習に取り組む」、「読書を継続しておこなう」、「毎日、筋トレに励む」、「家族の手伝いをする」など大きな目標、小さな目標、どんな目標でもかまいません。夏休みの終わりに「これはやり切った」という経験をしてほしいと強く思います。そういった経験は、必ず今後の自信や成長につながりますから。

また、今年は戦後80年という節目の年です。6月23日は「沖縄慰霊の日」、8月6日は広島、8月9日は長崎の「原爆の日」、そして8月15日の「終戦記念日」。・・・日本に生きる私たちが、平和の大切さを見つめ直す夏でもあります。

生徒の皆さんはもちろん、先生たちも同様に戦争を知らない世代です。しかし、知らないことだからこそ、「なぜ、戦争はおきたのか?」「なぜ、原爆が投下されたのか?」と自分の目線で問いをもち、考えることが必要です。今、私たちが当たり前のように過ごしている「平和な日常」は、かつての悲惨な戦争や多くの人々の犠牲の上に築かれたものあることを、この夏休みに少しでも感じ取ってほしいと思います。広島、長崎の「原爆の日」や8月15日近くなると、平和式典の中継や、戦中・戦後に関する特集番組が企画されます。ぜひ生徒の皆さん、保護者の皆様も、視聴し（機会があれば）、感じたことを話し合う時間をつくっていただければと思います。

戦争を直接体験した方々が年々少なくなる中、その記憶、教訓をどのように後世に伝え、引き継いでいくのか、私たちに課せられた大きな課題です。一方で、現在もウクライナやガザ（パレスチナ）では、多くの市民、子どもが日常を奪われ、命の危険にさらされています。遠い国の出来事のように感じるかもしれませんが、そこには私たちと同じように日々を生きる子どもたちや家族がいます。戦争は「過去のもの」ではありません、今も続く現実です。命の尊さ、人を思いやる気持ち、そして争いのない世界をつくるために、自分に今できることは?



そうしたことに、少しでも関心を持ち、考えるきっかけとなる夏休みであってほしいと願っています。

～広島市の平和公園にある原爆慰霊碑～

■生徒の活躍

おめでとうございます！



◎8月12日（火）～15日（金）は学校閉庁期間です。その期間は来校対応、電話対応ともにできませんので、緊急時は**03-3652-1151**に御連絡ください。

9月1日（月）の始業式には全員の元気な姿が見られることを楽しみにしています。